

NRC、米国の原子核物理学プログラムの長期的戦略を示す（6月26日）

米国学術研究会議（National Research Council：NRC）は、米国における過去10年間に亘る原子核物理学分野の業績と、今後取るべき長期的戦略の提言をまとめた報告書「原子核物理学～問題の核心の探究～（Nuclear Physics: Exploring the Heart of Matter）」を発表した。

同報告書は、エネルギー省（Department of Energy）の原子力科学諮問委員会（Nuclear Science Advisory Committee：NSAC）が2007年に発表した5ヶ年計画を基盤とし、エネルギー省と米国科学財団（National Science Foundation：NSF）による原子核物理学プログラムの効果的な運用を称える内容となっている。

また、将来へ向けた長期的優先事項として、同報告書では、①近年性能が高まる原子核物理学関連施設の活用、②適切なタイミングでの希少同位体ビーム施設（Facility for Rare Isotope Beams）の完成、③地下科学プログラムの開発と実施、④大学院生・ポスドク研究者を対象とした全国規模のコンペの開催、などを提言している。

なお、本報告書は

http://www.nap.edu/openbook.php?record_id=13438&page=R1から閲覧可能。

National Academies, National Research Council Presents Long-Term Priorities For U.S. Nuclear Physics Program

<http://www8.nationalacademies.org/onpinews/newsitem.aspx?RecordID=13438>